

令和2年度 学校事務職員主事研修会

令和2年9月25日に南予地方局7階大会議室において、令和2年度新規採用事務職員以外の主事25名を対象に職階別研修会を開催しました。

【研修Ⅰ】 次長講話

はじめに、地方公務員の研修の法的根拠とその目的について再確認をしました。

次に「公務員倫理」「目標チャレンジシート」「不適正経理の問題点と解決策」「自己啓発」についての話があり、公務員に求められる高い次元の倫理観を持つことの重要性について再認識することができました。



<受講者の所感（抜粋）より>

- ・公務員として、学校事務職員としての自分の意識や仕事に対する姿勢を振り返り、気持ちが引き締まった。
- ・目標チャレンジシートについて、下半期は新たな目標を設定し、上半期より成長した自分になれるように努力したい。
- ・自己啓発として、法令集を引くことを習慣づけるなど、日々の積み重ねにより知識を増やしていきたい。

【研修Ⅱ】 法令・実務研修（ファシリテーター：主事（班長、副班長））

今年度は、企画力、創造性や協調性を身に付けてもらうことを目的に、班長と副班長のペアで各班別研修の企画から資料作成、運営までを行いました。受講者全員で各諸手当の事務処理における根拠法令の確認や事例問題を通じた基礎・基本の再確認を行い、知識を広げることができました。また、今年度は、各班の指導助言を事務長にさせていただき、各諸手当について更に理解を深めることができました。

【1班】 扶養手当（事例：出生、子のアルバイトの所得超過など）

<受講者の所感（抜粋）より>

- ・認定時の扶養実態の確認、根拠と注意点を押さえること、情報収集の重要性等を意識し、今後の事務処理を行いたい。
- ・受給者の毎月の収入確認や支給要件の確認等、手当受給者とのコミュニケーションが大切であることを学んだ。



【2班】 児童手当（事例：出生、受給者台帳の記載、転居、現況届など）



<受講者の所感（抜粋）より>

- ・10月の児童手当支給時に、台帳の整備を行い演習問題の内容が身に付いているか確認したい。
- ・受給者台帳が基本となることや確認すべき書類・法令等を学ぶことができた。

【3班】 通勤手当（事例：再任用職員の例、非常勤職員の例、支給期間が年度をまたぐ返納など）

<受講者の所感（抜粋）より>

- ・演習問題に照らし合わせて、法令集のどこに関連する内容が書かれてあるか教えてもらい、実務の根拠を理解することができた。
- ・他市町で作成している経路図資料を参考に、事務室内でスムーズに経路等の確認ができるように資料を作成したい。



【4班】特殊勤務手当（事例：小学校実績、中学校実績など）



<受講者の所感（抜粋）より>

- ・根拠法令や電算資料、支給額通知書、従事簿の作成等の実務について学ぶことができ、日常の業務に生かしていきたい。
- ・先輩方から丁寧で分かりやすい資料、勉強になる問題作りなどを学ぶことができた。

【5班】住居手当（事例：扶養親族が借り受けた場合、単身手当受給者の留守家族の場合など）

<受講者の所感（抜粋）より>

- ・経験のない特殊な事例の処理方法が確認できたので、自身の知識として蓄え、今後の事務処理に生かしていきたい。
- ・契約書は隅々まで見ることやどんな場合に申立書が必要か学ぶことができた。



【研修Ⅲ】 グループ協議（ワークショップ）

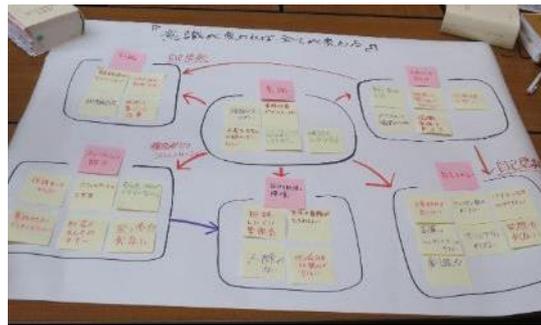
グループ協議では、「仕事で自分の役割を果たすための自主性と責任感」について協議をしました。

仕事で失敗した時やうまくいかなかった時に自分に足りなかったことをKJ法でその課題の解決策について、事務長の助言を得ながら協議しました。最後に、各グループで出た課題と改善策を発表し、参加者全員で共有しました。

このワークショップを通して、組織の中で自分の果たす役割が見えてきたのではないのでしょうか。日々の職務の中で、自ら調べ、考え、提案して実行できる、主体性を持った人材となるよう、今後の取り組みに期待しています。

<受講者の所感（抜粋）より>

- ・自分で課題を見つけ、他者との関わりの中で解決していく力を身に付けることで、自分のことだけでなく、事務室や共同実施地域、学校の課題など、大きな組織の課題にも対応できるように勉強していきたい。
- ・自分に対する課題を把握していることは重要であり、失敗を次に生かして成長していきたい。
- ・一人で解決しようとせず周りに相談し、アドバイスを受けることで上手くいくという結論になった。コミュニケーションをとることで良い方向への改善点が見つかることもある。積極的に会話をしていきたい。
- ・若手事務職員の責任感やコミュニケーション能力について課題があがった。特に責任感においては、誤った解釈で責任を果たそうとしても誤った結果しかうまれないことから、まず物事の本質を見極める目を養う必要がある。そのためにも自分の感覚で仕事をせず、先輩方の思考を取り入れながら、正しい判断能力や知識を身に付けたい。



最後に、南予教育事務所次長からの講評で終了しました。